

# ふらの農業委員会だより vol.44

令和5年7月

【発行】富良野市農業委員会  
電話 0167(39)2323  
FAX 0167(23)2122

- 1.19 ①女性農業委員・農地利用最適化推進委員等活動強化研修（オンライン）
- 1.20 ②全道農業者年金研究会（オンライン）
- 1.26-27 ③女性農業委員登用に向けての先進地視察（石狩市・岩見沢市・札幌市）
- 1.31 ④市町村農業委員会活動強化研修会（オンライン）
- 2.9 ⑤農業者年金研修会（旭川市）
- 2.14 ⑥市長への意見書提出（市役所）
- 2.15 ⑦富良野沿線農業委員会連絡協議会研修会（中富良野町）
- 3.20 ⑧富良野地方アグリパートナー協議会臨時総会（市役所）



2月14日 意見書提出

今年1月からの活動を報告します。詳細は2ページ以降に！



3月20日 アグリパートナー協議会臨時総会

## 今後の予定

富良野市年金協議会総会	7月 7日
作柄調査（兼市長作況）	7月 14日
農地パトロール推進会議	7月 26日
まちづくりトーク （市議会議員との意見交換）	8月 18日

8月18日予定のまちづくりトークでは昨年に引き続き、鳥獣害対策について話し合う予定です。



過去の農地パトロールの様子。農地パトロールでは市内全農地を見回り遊休農地や違反転用がないかなどを調査します。

# 活動報告

令和5年1月からの活動を報告します。

## ① 女性農業委員・農地利用最適化推進委員等活動強化研修

〔1・19〕

コロナ禍の現状を踏まえZoomを利用したライブ配信で行われ、市役所会議室で研修しました。研修会の前半は、「農業委員会における女性登用の推進について」と題して農林水産省就農・女性課女性活躍推進室長 渡邊桃代氏に講演をいただきました。休憩を挟んで後半は、事例報告として美深農業委員会より「女性農業者のつどい」の取り組みについて、報告として「全国農業委員会女性協議会の活動と女性登用について」を全国農業委員会女性協議会副会長 道下和子氏と一般社団法人全国農業会議所農地・組織対策部主任 上野 洗喜氏からそれぞれ説明されました。

令和2年12月に閣議決定された『第5次男女共同参画基本計画』において、全ての分野において「指導的地位に占める女性の割合が2020年代の可能な限り早期に30%程度となるよう目指して取り組みを進める」とされました。農業委員会は女性



の割合を早期に20%、2025年度までに30%とする成果目標が設定され、農林水産省から各市町村・各農業委員会に通知されています。今回の研修会では、女性登用の取り組みの推進と登用に関する調査結果、農業委員会における女性の活躍事例等の説明や報告を受けました。

この日の研修は、新しくなった市役所内で初めてのライブ配信によるオンライン研修で、配信先のトラブル等ハード面に不満はありましたが、女性登用に向けて検討を進めるための良い研修になったのではないかと思います。

## ② 全道農業者年金研究会

〔1・20〕

前日と同様にオンラインで開催されました。前半は「畑との

であいづくり」ウィズ・コロナでも色あせない」と題して、株式会社ただきますカンパニー代表取締役 井田芙美子氏より講演をいただきました。なお、後半の情勢報告「農業者年金制度と加入推進」については当委員会総会と時間が重なっていたため、参加出来ませんでした。

株式会社ただきますカンパニーは、2013年に設立し現在従業員9名、協力農場4戸、畑ガイド16名の構成員で、十勝で農業への理解や関心を深めてもらえるような様々な体験メニューやサービスを企画運営しており、主に観光・食育・人材育成・ツアーコーディネート等の4つの事業を行っています。講演の中で特に興味深かったのは、作業体験や収穫体験を必要としない畑ガイド『農場ピクニック』で、有りそうで無かった新しい発想だと思いました。2013年に設立してから順調に来場者を増やしていた矢先のコロナ禍でもオンラインツアーをライブ配信するなど、より多くの体験と啓蒙活動を取り組んでいるようでした。

多くの方に十勝農業を知ってもらいたい、農業を身近に感じてもらいたいという思いから、挑戦を続けていく姿勢からは良い刺激を受けることができました。これからの活動に注目してみようかと思えます。(今村文哲)

## ③ 女性農業委員登用に向けての先進地視察に行つて

〔1・26〜27〕

男女共同参画基本計画により農業委員会においても女性農業委員登用に向けて取り組むよう国からの通達が来ているところです。北海道では170組織の農業委員会のうち女性農業委員がいる組織は7割との事ですが、富良野市では未だに0人という現状です。何度か会議を行い「どういう選考の仕方が望ましいのか、どういった活動をしてもらうのか」など協議を重ねましたが、あっせん業務の事や農業委員の人数など課題が多くなかなか前に進みませんでした。そこで農





政部会では1月26、27日の日程で先進地視察に行ってきました。

1日目は石狩市農業委員会を訪問しました。委員数18名のうち女性が3名ということ、女性の割合は高いです。女性委員は元市議会議員、商工会議所、JA女性部部長の方々に石狩市のPR活動や地産地消、新規就農者への対応などを行っているそうです。南部のJA石狩管轄ではJAがあっせん業務を行っているとの事でした。女性がいる事で活気がありコロナが明けたのちは、もう少し活動の幅を広げたいとの事でした。

2日目は岩見沢市農業委員会を訪問しました。委員数36名のうち女性が3名でJA職員、教職員、専業主婦の方々です。あっせんはしていませんが集積計画作成時の立会や農地パトロールは班に分かれて全員で行っているとの事でした。あっせん件数は400件程度ということ、富良野市の倍以上ありますが、システムが効率的だと感じました。女性委員は、農業者年金の加入推進への貢献、女性目線で細かい所に気付くため高齢の土地所有者に対して分かり易く対応できる所が良いとの事でした。

また、同じく2日目には北海道農業会議を訪問し、女性農業委員登用に係わる道内の状況等について説明を受けてきました。

今回の視察研修をもとに富良野市にあった女性登用推進を指し登用後も活動しやすい環境

を整える事が重要だと感じました。(中元 修)

**④市町村農業委員会活動強化研修会** [1・31]

農業委員会活動強化研修会がオンラインで開催されました。主催者である全国農業会議所事務局長より「農業委員会組織を巡る情勢」として、食料・農業・農村政策を巡る最近の動きや、農業経営基盤強化促進法等の改正による農業委員会系統組織の取り組みについて講演があり、農業委員、農業委員会の役割について説明いただきました。

続いて、道内2つの地域の農業委員会の取り組みについて報告されました。

最初に帯広市農業委員会より「農業者結婚推進協議会の取り組み」について、続いて標茶町農業委員会より「産業まつりでの活動の見える化、情報提供活動等の取り組み」についてということ、地区の産業まつりの農業委員会活動のパネル展示や相談コーナー開設など、農業委員会組織を広く知ってもらうための取り組みについて紹介されました。(清水 直樹)

**⑤農業者年金研修会に参加** [2・9]

旭川市大雪クリスタルホールにて、市町村農業者年金協議会代議員等研修会が開催されまし

た。会場は管内より多数の農業委員が参加していました。事務局である北海道農業会議より以下について説明を受けました。

- ・農業者年金制度の現状
- ・新制度の農業者年金と制度改革について
- ・農業者年金制度の充実に関する要望と制度改革状況について

農業者年金制度の現状については令和4年度に北海道では308人の新規加入者がありましたが昨年同期より加入者は減少しているとの事でした、富良野市においては11名が加入されています。

- ①令和4年1月より35歳未満の方は月額1万円から加入できるようになりました。
- ②同年4月からは年金の受給要件を満たした方は受給開始時期を自身で選択出来るようになりました。
- ③同年5月からは年金の加入可能年齢が65歳未満までに引き上げられました。

農業者年金制度の充実に関する要望については、政策支援要件の充実として政策支援対象者の拡充を図ること、特例保険料の年齢要件の廃止、区分3の配置を要望しています。その他に納付済み保険料の保証、農業者年金受給者の現況届の届出省略、旧制度の経営移譲における第1

種加算対象農地等及び第2種加算対象農地等の取扱いの緩和について説明をいただきました。

農業者年金には多くのメリットがあることを改めて認識させられた研修会になりました。(渡辺昌彦)

**⑥市長への意見書の提出と意見交換** [2・14]

市長へ「富良野市農業・農村振興施策に関する意見書」を提出しました。

意見書は農政部会を中心に議論を重ね、最終的に「有害鳥獣被害対策」、「農業・農村環境整備の推進について」、「担い手対策について」の3項目について農業現場からの意見として作成しました。

当日は農政対策特別委員会の委員9名で提出し、その後、担当部署の職員も交え意見交換を行いました。

アライグマ被害対策については、箱罫の貸出数の増設等を要望し、市側も同じ考えであること、見回りの労働時間短縮のためのカメラの設置、給餌方法を簡易化するための実証実験など新たな取り組みについて確認することができました。

鹿被害対策については、老朽化した鹿柵の問題や、個人で設置する電柵への支援、個体数が増えたことから効果的な駆除法や最終処理施設の問題などについて意見交換をしました。

農業・農村環境整備については、離農者の空き家の解体に関わる問題やスマート農業の推進について意見を交わしました。担い手対策については研修生の心のケア等について話し合いました。

最後に市長から、「実現可能なものは早急に、検討が必要なのは調整をしていきたい。」と言葉をいただき市の政策支援を期待したいところです。

(佐々木雅志)

**⑦ 富良野沿線農業委員会連絡協議会研修会について**  
【2・15】

富良野沿線農業委員会連絡協議会研修会が中富良野町農村環境改善センターにおいて開催されました。富良野沿線農業委員会連絡協議会は、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の5市町村で成り立っています。コロナ感染対策に万全を期して3年ぶりに68名が集い行われました。

北海道農業会議より三本義輝氏を招き「最新の農業情勢について」と題し研修会を始めました。昨今の世界的な食糧情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクや環境問題など農業を取り巻く情勢が目まぐるしく変化しているため、国の指導の下、食料・農業・農村基本法等の見直しに向けた議論が行われているそうです。

また、今年4月1日より農業経営基盤強化促進法等が一部改正され、市町村は「①地域農業の将来のあり方」や「②農用地の具体的な利用の姿」を示す地域計画（地域農業経営基盤強化促進計画）を策定することが法定化されました。②は具体的に目標地図（10年後の農業を担う者ごとに利用する農用地等を定めた地図）として示すこと、農業委員会は目標地図の素案の作成に取り組むことが定められました。

また農地法の改正では、農地の下限面積の廃止により新規参入がしやすくなるなどがあげられました。

(仁原憲和)

**⑧ 富良野地方アグリパートナー協議会臨時総会**  
【3・20】

長きにわたり農村花嫁対策を実施してきました「富良野地方アグリパートナー協議会」が令和5年3月31日に半世紀の歴史に幕を閉じました。

昭和48年、沿線5市町村の農業委員会で「富良野沿線農村花嫁対策推進協議会」を設立。翌年には、美瑛町農業委員会も加入し1市3町1村体制で活動し、平成11年には「富良野地方アグリパートナー協議会」に名称を変更。

協議会設立直後においては、府県の企業へ出向いての交流事業や冬期間は北の峰スキー場や

自然豊かな富良野でのサマーフェスティバルを中心に交流事業を継続してきました。また、昭和50年〜平成19年の長きに渡り、「週刊女性」「花嫁さん募集中」に756人の青年写真を掲載し2,693人の女性応募がありました。協議会解散までに約6千人余りがこれら事業に参加されました。これら多数の事業による縁で250組以上がご結婚され、現在においてはその二世の方達が経営者として富良野地方の農業を支えてくれています。

平成30年には美瑛町農業委員会が脱退をされ、近年においては年2回程度の交流事業を中心として活動を継続してまいりました。

しかし、結婚に対する意識変化なのか、毎回半数以上がマッチングしても成婚までに至るケースが減少傾向にあり協議会運営の難しさを感じる時代となり、JAふらのにおいても同様のパートナー対策を実施され成果を上げていることから、富良野地方アグリパートナー協議会としては一定の役割を果たしたと考え、本協議会を解散する事を理事会において決定し、臨時総会において承認され令和5年3月31日をもって解散いたしました。

様々なご意見・お考えがあるうかと思いますがご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(及川栄樹)

**改選に向けた手続きが始まります**

農業委員の任期は3年間で来年3月31日までとなります。今年度は改選期となりますので、皆様のご協力をお願い致します。

**【改選スケジュール】**

- 令和5年10月～ 改選手続準備
- 令和5年11月1日 広報、ホームページ掲載
- 令和5年11月下旬～12月下旬 募集
- 令和6年 1月 候補者選考委員会
- 令和6年 3月 議会同意
- 令和6年 4月 任命